

2022年度 文献検索ガイド

大阪大学附属図書館 外国学図書館

2022年度文献検索ガイドを始めます。
このガイドでは、これから卒業論文に取り組む皆さんに、文献検索に役立つ
情報を紹介します。

本日の内容

文献検索の基本

文献の探し方①芋づる式

文献の探し方②データベース（日）

文献の探し方③データベース（英）

文献の探し方④新聞記事

文献の入手方法

このガイダンスでは、6つの項目について説明します。
まず、文献の探し方の基本について概観した後、詳しい探し方を4つに分けて説明します。
最後に、文献を実際に入手して読むための方法をいくつか紹介します。

卒論作成の プロセス

文献検索の基本

文献の探し方①芋づる式

文献の探し方②データベース(日)

文献の探し方③データベース(英)

文献の探し方④新聞記事

文献の入手方法

1. 興味関心の赴くままに情報を得る

2. 卒論テーマを決める

3. テーマを深める情報を探す

4. 研究の論点を決める

5. 論証を補強する情報を集める

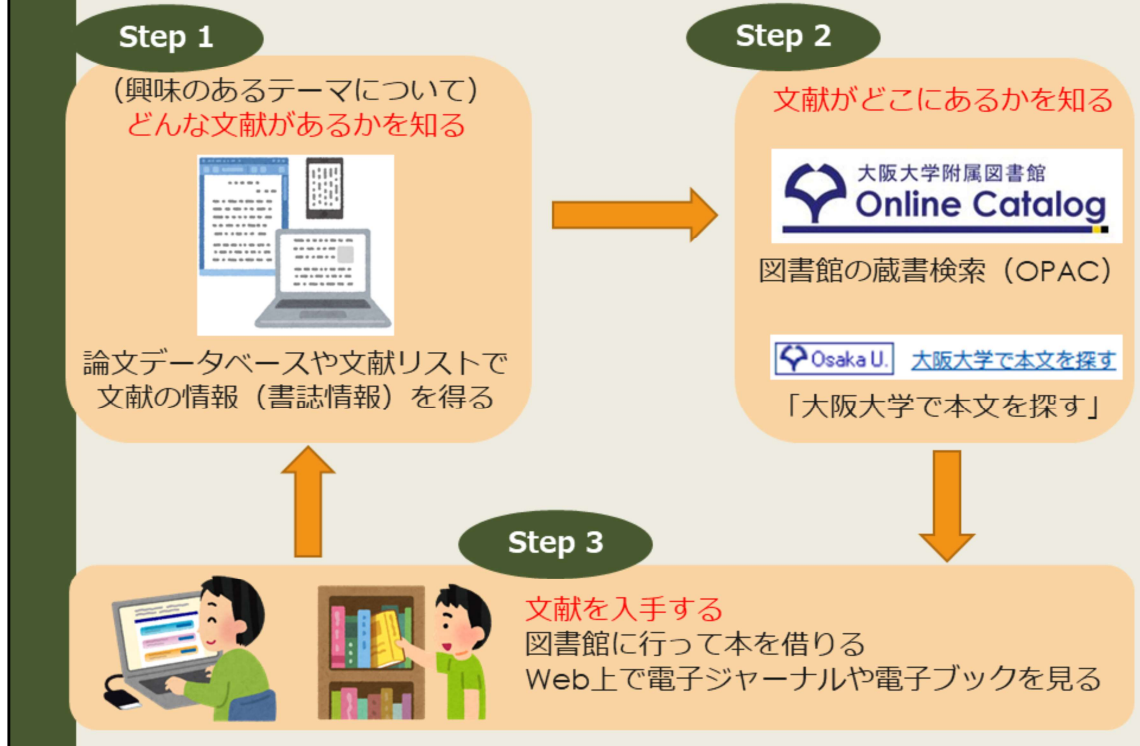
6. 論証（執筆）する

卒業論文の作成は、どのようなプロセスで進むのか見ていきましょう。
最初に重要なのは、テーマを決めることです。これまでに勉強してきたこと、日々の生活の中で興味を持ったことなど、初めはぼんやりとしたもので良いので何かテーマを考えましょう。
次に、ぼんやりとしたテーマを論文という形にするために、知識を深める必要があります。これまでの研究から分かったこと、解決されていない問題点について、誰よりも詳しくなるつもりで調べます。その中で、卒業論文の題目としてふさわしい論点を見つけましょう。
論文の核となる論点が決まったら、裏付けとなる情報を集め、執筆していくことになります。

論文作成は概ねこのようなプロセスで進みますが、情報を集める中でテーマの見直しが必要になったり、執筆しながら必要な情報を集めたりと、引き返すことや同時進行することもあります。行き詰まって悩んだ時には、指導教員に早めに相談しましょう。

また、「卒論テーマを決める」「研究の論点を決める」「論証、執筆する」という部分は、最終的に自分で頑張るしかないところですが、その準備段階となる「情報を探す」部分は、図書館が手助けしますので、ぜひ有効活用してください。

文献検索の基本



文献の探し方の基本的な流れを図を見ていきましょう。卒論プロセスのどの段階でも、基本は同じです。

まずは、世の中に「どんな文献があるかを知る」ことから始まります。先生から授業中に紹介してもらったり、教科書に参考文献として書かれていたり、論文データベースなど論文を探すためのツールを使ったりして、文献の情報、「タイトル・著者・刊行年」といった書誌情報を手に入れます。

次に、その文献を実際に読むには、文献がどこにあるかを調べなければいけません。文献がどこにあるかを探すツールの一つに、図書館の蔵書検索があります。また、どこにあるかを探す場合は、文献を入手するという次のステップを見据えてツールを選びましょう。

無料で入手できる方法としては、阪大OPAC、阪大契約データベース、インターネットのフリーアクセス、などがあります。有料でしか入手できない場合は、学外から取り寄せる方法、自分で購入する方法、と調べを進めてみましょう。

文献を探すことに慣れてくると、この文献は大阪大学の図書館にありそうだ、あるいは論文データベースに収録されているだろう、などの見当がついてくるでしょう。

文献検索の基本

Step 1

(興味のあるテーマについて)
どんな文献があるかを知る



論文データベースや文献リストで
文献の情報（書誌情報）を得る

芋づる式
コース

出発点

人から教えてもらう
図書館で棚を眺める

本を読む
論文を読む

DB検索
コース

文献リストを見る

キーワードを集める

文献リストの資料を
図書館等で探す

キーワードで
論文データ
ベースを検索

文献検索の出発点としては、以下のような方法があります。

一つ目、人から文献の情報を教えてもらう（指導教員やゼミの先輩に、その分野の代表的な本や論文を教えてもらったり、シラバスの参考書欄を見たりする）
二つ目、図書館でブラウジングする（テーマ別に本が並んでいるので、興味のある分野の棚を眺めてみる）

どちらかの方法で、気になった本や論文をまず読んでみて、次のステップに進みましょう。

→「芋づる式コース」参考文献として紹介されている情報を得て、芋づる式に新しい文献を発見する方法です。

→「データベース検索コース」興味のある分野の具体的な知識（言葉、キーワード）を得て、データベース検索で新しい文献を発見する方法です。

世の中にどんな文献（≡情報）があるか



文献検索の具体的な方法に入る前に、一口に文献や情報といっても、様々なメディアで発信されていることを押さえておきましょう。

この図は、世の中の情報が、時間が経つにつれ、精査され、淘汰されて、信頼できる情報に変化していくことを示したものです。
時間が経つにつれて、情報が公開される媒体も図のように変化していきます。

自分が探している情報が、どのメディアに載っているかを意識して検索するツールを選ぶことが重要になってきます。
新聞記事を探しているのに、国語辞典を調べる人はいませんよね。
新聞記事を探したい場合は、記事の情報をまとめている新聞記事索引と呼ばれるような資料や、新聞データベースを調べる必要があります。
論文を探している場合は論文データベース、図書を探している場合には図書館の蔵書検索というように、探す文献と、それに合ったツールを使い分けることが大切だと覚えておきましょう。

目的に合った文献を探す

1. 興味関心の赴くままに情報を得る

2. 卒論テーマを決める

3. テーマを深める情報を探す

4. 研究の論点を定める

5. 論証を補強する情報を集める

6. 論証（執筆）する



また、自分が今、卒論のプロセスのどの段階にいるのかによって、探すべき文献は異なります。

テーマがぼんやりしている段階なら、入門的な図書や、あるテーマを広く浅く取り上げているような概説書などを読むと良いでしょう。

テーマが明確になり、より詳しく深い情報を得たいという段階なら、専門的な研究書や論文を読むことになります。

論文を書くために、インタビューやアンケートを行ったり、統計書や白書を元にデータを集めたりする必要があるかもしれません。

段階ごとの目的に応じて、ふさわしい文献を探せるようになりましょう。